◆ 広島県立歴史博物館へ見学◆

平成28年5月10日（火）

６年生が，広島県立歴史博物館へ見学に行きました。この博物館には，室町時代に存在した「草戸千軒」の遺跡跡を再現した，「草戸千軒ミュージアム」があります。その他にも，土器や石器などの，多くの展示品をみることができます。

草戸千軒の集落跡を復元した部屋では，市場の様子や生活の様子を間近で見ることがでました。子ども達からは，「昔の人はこんなものを食べていたんだ。」「この家は，鍛冶屋さんかな？だって，金づちがあるから。」など，思い思いの意見を述べていました。子ども達の細かいところまで見ている観察力に驚きました。学芸員さんの質問にも積極的に答え，子ども達の学びの深さを知りました。短い時間の見学だったので，物足りない様子の子どももいたようです。また別の機会にも，歴史博物館を訪れ，じっくり見学して欲しいと思います。

◆ 交通安全教室が行われました ◆

平成28年5月30日（月）

福山市生活安全推進課の方々と警察官の方を講師にお招きし，交通安全教室を行いました。毎年ぎんがの郷小学校に来ていただき，交通安全についてお話をしてくださっています。

まず，全校児童で，飛び出しをする危険性や自転車に乗るときのきまりを確認しました。

実際の事故の場面を再現していただき，安全に道路を渡ることを改めて学びました。また，自転車に乗る際は，ヘルメットをかぶる，安全確認をする，曲がる時や止まる時は手信号で車に知らせるなどの安全確認をきちんとすることなど，たくさんの交通ルールを教えていただきました。１年生は，歩行者として安全に歩けるように，横断歩道や踏み切りの渡り方の実技講習を受けました。話をしっかり聞き，上手に行動することができました。

交通安全教室を通して，日ごろの自分たちの行動をふり返り，交通マナーをきちんと守らなければいけないことを学ぶことが出来ました。

書くこと

理科・情報専科　近藤　恭弘

私の担当している理科では、ノートや学習のまとめを書く活動を重視しています。自分の理解度を把握する（メタ認知）という観点から大切にして取り組んでいますが、お茶の水女子大名誉教授の外山先生が「とにかく書いてみる」というタイトルのエッセイに「考えをまとめようとして、なかなか思うように行かなくて、いらいらすることがある。（中略）まとめ、というのは、実際やってみると、なかなか、たいへんな作業であるのがわかる。（中略）とにかく書き出すと、書くことはあるものだ。おもしろいのは、書いているうちに、頭の中に筋道が立ってくる。頭の中は立体的な世界になっているらしい。（中略）書き進めば進むほど、頭がすっきりしてくる。先が見えてくる。もっともおもしろいのは、あらかじめ考えてもいなかったことが、書いているうちにふと頭に浮かんでくることである。」と書いておられました。

私は、理科で書くことを重視することを伝えるために、子ども達に、「書くことは考えることだよ。」と伝えてきました。これは大学院のときに出会った認知心理学の知見と優れた先行事例をもとにした取り組みでしたが、先の文章は書くことの利点を非常にわかりやすく述べており、折を見て子ども達に紹介しようと考えています。

現在、新しい指導要領の改訂に向けて、さまざまな動きがありますが、その中心のひとつにアクティブ・ラーニングというものがあります。本校でも、プロジェクトチームを編成し取り組んでいます。私が実践しているノートやまとめは、学習している中で自ら疑問を見つけ、それを解決しようとすること、学んだことをまとめることで、学習を整理・深化させていくことといった点でアクティブ・ラーナーを育てる一助になると考えています。

参考文献「思考の整理学」外山滋比古　ちくま文庫

ぎんがの郷タイムス第３号は７月下旬にお届けする予定です。